

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称：せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



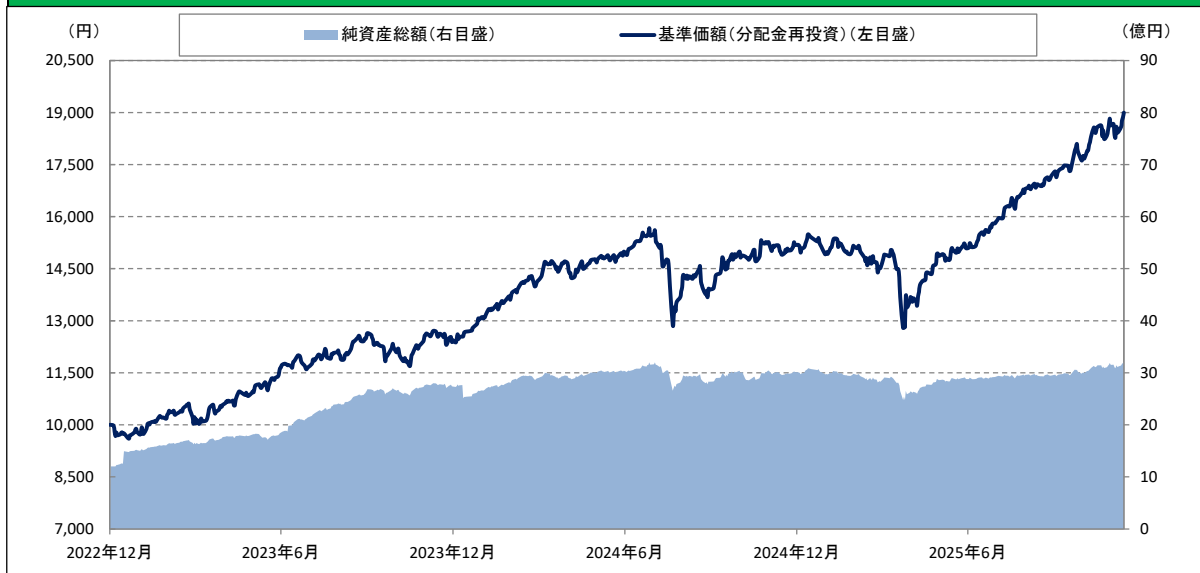
運用実績

設定日・決算日・信託期間	
設定日	2022年12月16日
決算日	毎年12月15日 (休業日の場合は翌営業日)
信託期間	無期限

基準価額・純資産総額	
基準価額	18,997 円
純資産総額	3,213 百万円

※基準価額は1万口当たりの価額で表示しております。

基準価額の推移



基準価額の騰落率

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
2.2%	12.3%	26.2%	27.5%	—	—	90.0%

分配金実績(税引前)

決算年月	2023年12月	2024年12月	—	—	—	設定来累計
分配金	0円	0円	—	—	—	0円

※上記のグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)等は控除しております。

※基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しております。

※基準価額の騰落率は、基準日から過去に遡った期間とし、当ファンドの基準価額(分配金再投資)を用いた騰落率を表しております。

※実際のファンドにおいては、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※分配金実績の分配金は、1万口当たりの実績です。分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

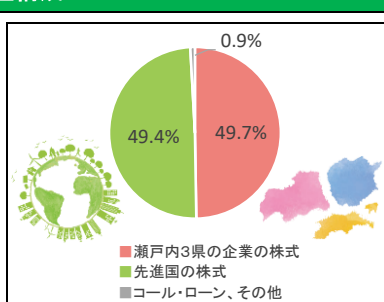
※分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、分配金支払いにより純資産が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。

基準日時点での分配金実績はございません。

主な資産の状況

資産構成

瀬戸内3県の企業の株式	49.7 %
先進国の株式	49.4 %
コール・ローン、その他	0.9 %



基準価額の要因分析

当月末基準価額	18,997 円
騰落額(前月末比)	410 円
瀬戸内3県の企業の株式の要因	319 円
先進国株式の要因	107 円
その他要因	-16 円

※資産構成は、純資産総額を100%として計算した値です。

※資産構成における「瀬戸内3県の企業の株式」は「瀬戸内3県株式マザーファンド」の構成の割合を記載しております。

※資産構成における「先進国の株式」は「先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)」の構成の割合を記載しております。

※基準価額の要因分析の騰落額は各資産がファンドの基準価額の騰落額に与えた影響等の目安をお伝えするために簡便的に計算した概算値です。

※その他要因には信託報酬等を含みます。

- MONTHLY REPORT -

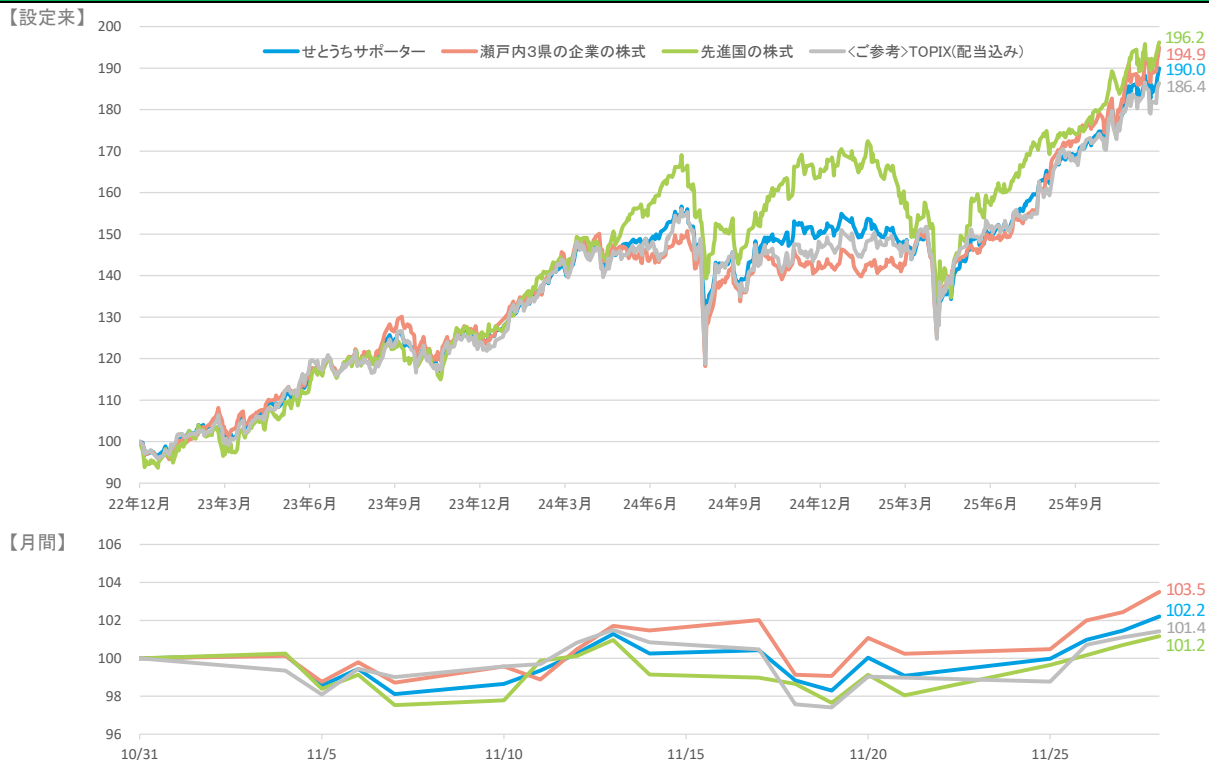
せとうち応援株式ファンド
(愛称: せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



ファンドと各資産の基準価額の推移



※「瀬戸内3県の企業の株式」は投資対象である「瀬戸内3県株式マザーファンド」を、「先進国の株式」は投資対象である「先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)」を表しています。
 ※上記のグラフは、せとうちサポーターならびに瀬戸内3県株式マザーファンド、先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)の基準価額およびTOPIX(配当込み)を、設定日(2022年12月16日)および前月末の値を100として指数化したものです。
 ※基準価額は、信託報酬控除後の価額を用い、決算時に収益分配があった場合にその分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
 ※TOPIX(配当込み)は「瀬戸内3県の企業の株式」および当ファンドのベンチマークではありません。

市場動向および運用状況

【国内株式市場】

2025年11月の国内株式市場は上昇しました。

国内では、上旬は、相場の過熱感を意識した売りや米ハイテク株安の影響などから軟調に推移しました。中旬は、割安株などが買われ一時最高値を更新する場面がありましたが、日中関係の悪化が重荷となり再度下落しました。下旬は、米利下げ観測の高まりや、好業績銘柄への物色が拡大したことから反転上昇しました。

業種別では、鉱業や不動産業などがアウトパフォームとなり、情報・通信業や海運業などがアンダーパフォームとなりました。規模別では、中小型株が大型株より優位な推移となりました。

【海外株式市場】

2025年11月の海外株式市場は横ばいとなりました。

米国では、AI(人工知能)関連の巨額投資への懸念などから月初より軟調となったものの、堅調な企業決算などを背景に中旬にかけて底堅い展開となりました。下旬に入り、米利下げ期待が遠のくなかで、ハイテク関連株への過熱感を警戒した売りから下落しましたが、月末にかけては、一転米利下げ期待が高まり値を戻す展開となりました。

欧州では、上旬は、米ハイテク関連株の調整の影響から下落する場面はあった一方、米政府機関閉鎖の解消期待などから上昇する場面もありました。中旬には、AI関連銘柄への高値警戒感や米利下げ観測の後退から大きく下落する場面はあったものの、月末にかけては、米利下げ観測の高まりや英国の財政悪化懸念の後退などから買い戻される展開となりました。

米ドル/円相場においては、月初は米景気減速懸念などからドルの上値の重い展開となりましたが、中旬には米国の強い雇用指標などを受けドル高・円安が進みました。その後、月末にかけては米利下げ期待が高まりドル安・円高に振れましたが、日本の財政悪化への懸念も根強く小幅な動きに留まりました。月間では米ドル/円相場はドル高・円安となりました。

【運用状況】

2025年11月の当ファンドの騰落率は+2.2%となりました。

また、瀬戸内3県株式マザーファンドの騰落率は+3.5%となりました。先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)の騰落率は、海外株式市場は横ばいのなか、為替市場がドル高・円安に推移したことから、+1.2%となりました。

今後の運用方針 (以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

当ファンドでは、瀬戸内3県株式マザーファンドの受益証券および先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)の受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。各投資対象ファンドの受益証券については、組入比率を各50%を目途に投資を行います。

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称：せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

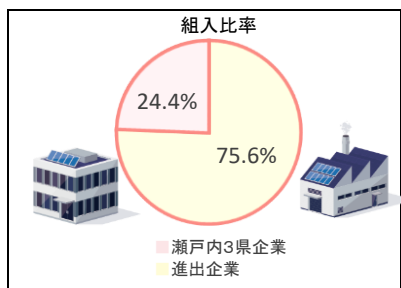
追加型投信／内外／株式



※このページは「瀬戸内3県株式マザーファンド」の情報を記載しています。

選定区分および組入銘柄内訳

選定区分	銘柄数	組入比率
瀬戸内3県企業	71	24.4 %
進出企業	68	75.6 %
合計	139	100.0 %



市場区分	組入比率
東証プライム	88.2 %
東証スタンダード	11.8 %
東証グロース	0.0 %
その他	0.0 %

※選定区分および市場区分の組入比率は「瀬戸内3県株式マザーファンド」の組入株式評価金額合計に対する割合です。

瀬戸内3県企業とは、岡山県、広島県、香川県内に本社またはこれに準ずるものを置いている企業とします。(金融業を除きます)



進出企業とは、岡山県、広島県、香川県内に進出している企業とします。(金融業を除きます)



瀬戸内3県企業の株式組入上位20銘柄

	銘柄名	組入比率
1	内海造船	1.4 %
2	中国塗料	0.9 %
3	西川ゴム工業	0.9 %
4	大倉工業	0.8 %
5	中電工	0.8 %
6	ローツエ	0.7 %
7	やまみ	0.7 %
8	倉敷紡績	0.7 %
9	四国化成ホールディングス	0.7 %
10	青山商事	0.6 %
11	サンマルクホールディングス	0.6 %
12	四電工	0.6 %
13	マツオカコーポレーション	0.6 %
14	四国電力	0.6 %
15	エディオン	0.6 %
16	ウエスコホールディングス	0.6 %
17	ハローズ	0.6 %
18	北川鉄工所	0.6 %
19	E・Jホールディングス	0.5 %
20	リヨービ	0.5 %
合計		14.1 %

進出企業の株式組入上位20銘柄

	銘柄名	組入比率
1	三井E&S	3.2 %
2	三井金属	2.6 %
3	五洋建設	2.0 %
4	住友電気工業	1.8 %
5	イオン	1.5 %
6	IHI	1.4 %
7	横浜ゴム	1.4 %
8	フェローテック	1.3 %
9	三菱商事	1.3 %
10	日本たばこ産業	1.3 %
11	ENEOSホールディングス	1.3 %
12	三菱マテリアル	1.3 %
13	ミライト・ワン	1.3 %
14	日本精機	1.3 %
15	三菱電機	1.2 %
16	三菱重工業	1.2 %
17	ジェイテクト	1.2 %
18	村田製作所	1.2 %
19	日東電工	1.2 %
20	パナソニック ホールディングス	1.2 %
合計		29.9 %

「瀬戸内3県株式マザーファンド」の株式組入上位10銘柄および組入上位10業種

	銘柄名	選定区分	県	市場	業種	組入比率		業種	組入比率
1	三井E&S	進出	岡山	東証プライム	機械	3.2 %	1	機械	15.4 %
2	三井金属	進出	岡山・広島	東証プライム	非鉄金属	2.6 %	2	化学	11.7 %
3	五洋建設	進出	広島	東証プライム	建設業	2.0 %	3	電気機器	10.3 %
4	住友電気工業	進出	岡山	東証プライム	非鉄金属	1.8 %	4	食料品	7.9 %
5	イオン	進出	岡山・広島・香川	東証プライム	小売業	1.5 %	5	非鉄金属	7.3 %
6	IHI	進出	広島	東証プライム	機械	1.4 %	6	輸送用機器	6.8 %
7	横浜ゴム	進出	広島	東証プライム	ゴム製品	1.4 %	7	建設業	6.3 %
8	内海造船	瀬戸内	広島	東証スタンダード	輸送用機器	1.4 %	8	小売業	5.4 %
9	フェローテック	進出	岡山	東証スタンダード	電気機器	1.3 %	9	卸売業	4.8 %
10	三菱商事	進出	岡山・広島・香川	東証プライム	卸売業	1.3 %	10	ゴム製品	4.1 %
合計						17.7 %	合計		79.9 %

※瀬戸内3県企業の株式組入上位20銘柄および進出企業の株式組入上位20銘柄、「瀬戸内3県株式マザーファンド」の株式組入上位10銘柄および組入上位10業種の組入比率は、「瀬戸内3県株式マザーファンド」の純資産総額を100%として計算した値です。

- MONTHLY REPORT -

Chugin Asset Management

せとうち応援株式ファンド
(愛称:せとうちサポーター)

追加型投信／内外／株式



※このページは「瀬戸内3県株式マザーファンド」の情報を記載しています。

「瀬戸内3県株式マザーファンド」のポートフォリオの組入全139銘柄(2025年11月28日現在)

銘柄名	県名	銘柄名	県名	銘柄名	県名
あ IHI	広島	四国化成ホールディングス	香川	フェニックスバイオ	広島
アオイ電子	香川	四国電力	香川	フェローテック	岡山
青山商事	広島	ジェイ・イー・ティ	岡山	福山通運	広島
旭化成	岡山	自重堂	広島	プレス工業	広島
アサヒグループホールディングス	岡山	住友ゴム工業	岡山	ポエック	広島
アシードホールディングス	広島	住友重機械工業	岡山 広島	ま マツオカコーポレーション	広島
あじかん	広島	住友電気工業	岡山	マツダ	広島
アスカネット	広島	セーラー広告	香川	マルヨシセンター	香川
アドテック プラズマ テクノロジー	広島	積水化学工業	岡山 広島 香川	三井E&S	岡山
穴吹興産	香川	た ダイキョーニシカワ	広島	三井金属	岡山 広島
アルフレッサ ホールディングス	岡山 広島 香川	大黒天物産	岡山	三菱瓦斯化学	岡山
イーグル工業	岡山 広島	ダイセル	広島	三菱ケミカルグループ	岡山 広島 香川
E・Jホールディングス	岡山	大日本印刷	岡山 広島 香川	三菱自動車工業	岡山
イオン	岡山 広島 香川	ダイヘン	岡山 広島 香川	三菱重工工業	岡山 広島
石井表記	広島	大和ハウス工業	岡山	三菱商事	岡山 広島 香川
イズミ	広島	タダノ	香川	三菱電機	岡山 広島 香川
イタミアート	岡山	タツモ	岡山	三菱マテリアル	岡山 広島 香川
ウエスコホールディングス	岡山	中国工業	広島	ミツ星ベルト	香川
ウエストホールディングス	広島	中国電力	広島	ミライト・ワン	広島
ウッドワン	広島	中国塗料	広島	村田製作所	岡山
エクセディ	岡山 広島	中電工	広島	明治ホールディングス	岡山 香川
エディオン	広島	帝人	岡山 広島	メディカルホールディングス	岡山 広島
NTN	岡山	ディスコ	広島	や ヤクルト本社	岡山
NTT	岡山 広島 香川	テイソー	岡山	山崎製パン	岡山 広島
ENEOSホールディングス	岡山	天満屋ストア	岡山	ヤマトホールディングス	岡山 広島 香川
エフピコ	広島	東洋炭素	香川	やまみ	広島
大倉工業	香川	東和ハイシステム	岡山	ユニ・チャーム	香川
大塚ホールディングス	岡山	DOWAホールディングス	岡山	横田製作所	広島
オービス	広島	東和薬品	岡山	横浜ゴム	広島
大本組	岡山	戸田工業	広島	四電工	香川
岡山県貨物運送	岡山	ドリームベッド	広島	ら ライオン	香川
岡山製紙	岡山	トレックス・セミコンダクター	岡山	ラクサス・テクノロジーズ	広島
オムロン	岡山	な 内海造船	広島	リョービ	広島
オルパヘルスケアホールディングス	岡山	長瀬産業	岡山	ローツェ	広島
か カルビー	広島	南海プライウッド	香川	ROOM	岡山
カナデピア	岡山 広島 香川	西川ゴム工業	広島		
川崎重工業	香川	西日本旅客鉄道	岡山 広島		
北川精機	広島	日清食品ホールディングス	岡山 広島 香川		
北川鉄工所	広島	日東電工	広島		
京セラ	広島	日本興業	香川		
麒麟ホールディングス	岡山	日本精機	広島		
倉敷紡績	岡山	日本製鋼所	広島		
クラレ	岡山	日本たばこ産業	香川		
KG情報	香川	日本ペイントホールディングス	岡山 広島 香川		
研創	広島	日本郵政	岡山 広島 香川		
神戸製鋼所	岡山 広島 香川	は 萩原工業	岡山		
五洋建設	広島	パナソニック ホールディングス	岡山		
コンセック	広島	はるやまホールディングス	岡山		
さ サンマルクホールディングス	岡山	ハローズ	広島		
JFEホールディングス	岡山 広島	ビーアールホールディングス	広島		
JMS	広島	広島ガス	広島		
ジェイテクト	香川	広島電鉄	広島		

(50音順)

	瀬戸内3県企業
	進出企業

※瀬戸内3県企業においては、本社等の所在する県名を記載しております。
 ※進出企業においては、主に進出している県名を記載しております。



- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称: せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



※このページは「先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)」の情報を記載しています。

資産構成

外国株式実質組入	100.0 %
現物等	95.6 %
先物等	4.4 %
コール・ローン、その他	0.0 %
組入銘柄数	555

組入上位10カ国

1	アメリカ	74.4 %
2	イギリス	3.5 %
3	カナダ	3.4 %
4	フランス	3.3 %
5	スイス	2.1 %
6	オランダ	1.8 %
7	オーストラリア	1.3 %
8	ドイツ	1.1 %
9	スウェーデン	0.9 %
10	デンマーク	0.8 %

組入上位10通貨

1	米ドル	77.8 %
2	ユーロ	8.5 %
3	英ポンド	3.7 %
4	カナダドル	3.6 %
5	スイスフラン	2.2 %
6	豪ドル	1.3 %
7	スウェーデンクローナ	0.9 %
8	デンマーククローネ	0.8 %
9	香港ドル	0.6 %
10	ノルウェークローネ	0.2 %

組入上位10業種

1	半導体・半導体製造装置	14.8 %
2	ソフトウェア・サービス	12.9 %
3	メディア・娯楽	9.7 %
4	医薬品・バイオテクノ・ライフ	8.5 %
5	金融サービス	7.4 %
6	資本財	6.6 %
7	銀行	3.8 %
8	保険	3.2 %
9	素材	3.2 %
10	自動車・自動車部品	3.0 %

株式組入上位10銘柄

	銘柄名	国	業種	組入比率	
1	エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置	10.5	%
2	マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	8.2	%
3	アルファベット クラスA	アメリカ	メディア・娯楽	4.4	%
4	アルファベット クラスC	アメリカ	メディア・娯楽	3.7	%
5	テスラ	アメリカ	自動車・自動車部品	2.9	%
6	イーライリリー	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.1	%
7	ビザ	アメリカ	金融サービス	1.4	%
8	ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.2	%
9	マスターカード	アメリカ	金融サービス	1.1	%
10	ASMLホールディング	オランダ	半導体・半導体製造装置	1.0	%

※このページは三菱UFJアセットマネジメント株式会社からの情報提供を基に作成しています。

※このページに記載されている構成比を示す比率は、すべて「先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)」の純資産総額を100%として計算した値です。

※国は原則、主要取引所所在地で分類しています。

※業種は、GICS(世界産業分類基準)で分類しています。

※“GICS”(Global Industry Classification Standard)は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称：せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



ファンドの目的・特色 (くわしくは販売会社へお問い合わせください)

◆ファンドの目的

信託財産の成長を目指して運用を行います。

◆ファンドの特色

<投資対象>

瀬戸内3県の企業の株式および先進国の株式へ実質的に投資します。

※「瀬戸内3県の企業の株式」部分の運用は瀬戸内3県株式マザーファンドを通じて行います。

※「先進国の株式」部分の運用は先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド(適格機関投資家限定)を通じて行います。

各資産について、50%ずつの組入比率を目標に投資します。

<各資産の投資方針>

①瀬戸内3県の企業の株式

「瀬戸内3県の企業の株式」部分の運用にあたっては、わが国の金融商品取引所上場株式の中から、瀬戸内3県の企業(金融業を除きます。)に投資します。

●瀬戸内3県の企業とは、岡山県、広島県、香川県内に本社またはこれに準ずるものを置いている企業(以下、「瀬戸内3県企業」といいます。)および瀬戸内3県に進出している企業(以下、「進出企業」といいます。)とします。

●瀬戸内3県企業の株式への投資については、時価総額、市場流動性及び投資リスク等を考慮して銘柄選定を行い、投資比率を決定します。

●進出企業の株式への投資については、時価総額、瀬戸内3県との関連度及び投資リスク等を考慮して銘柄選定を行い、投資比率を決定します。

②先進国の株式

「先進国の株式」部分の運用にあたっては、日本を除く先進国の株式に投資します。

●MSCIコクサイESGリーダーズ指数(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果をめざして運用を行います。

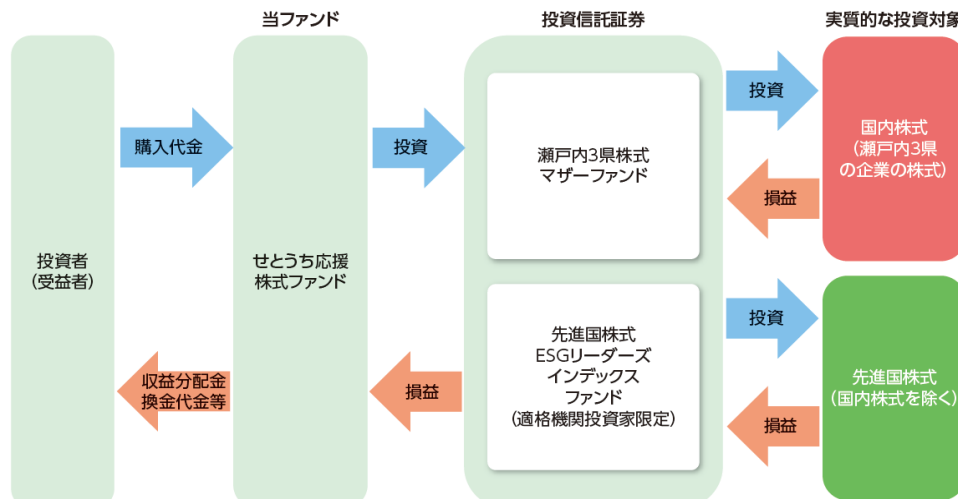
●MSCIコクサイESGリーダーズ指数(配当込み、円換算ベース)をベンチマークとします。

* ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字をとったものです。

原則として、為替ヘッジを行いません。

<ファンドの仕組み>

運用は主に以下の投資信託証券への投資を通じて、瀬戸内3県の企業の株式および先進国の株式へ実質的に投資するファンド・オブ・ファンズ方式により行います。



<主な投資制限>

- ・株式への直接投資は行いません。
- ・投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ・外貨建資産への直接投資は行いません。
- ・同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ・投資信託証券を通じて行う場合において、デリバティブ取引(法人税法第61条の5に定めるものをいいます。)は、価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

<収益分配方針>

毎年12月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・収益分配金額は、委託者が分配可能額、基準価額水準、市況動向等を勘案のうえ決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ・収益の分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。
(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

中銀アセットマネジメント

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称: せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信/内外/株式



追加的記載事項

◆「MSCIコクサイESGリーダーズ指数」について

■MSCIコクサイESGリーダーズ指数の構築プロセス



- ・年次レビュー(毎年5月)において適格ユニバースを更新し、各業種分類時価総額の50%を目標に一定の条件に従って銘柄を選定
- ・四半期レビュー(毎年2・8・11月)において、ESG適格基準の継続採用条件を満たしていない既存構成銘柄を除外した上で、各業種分類時価総額の45%未満となる場合、一定の条件に従って50%の目標に達するまで銘柄を新規採用

※MSCI ACWI ESGリーダーズ指数とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の主要先進国および新興国の大型株・中型株の中から、業種内において、相対的にESG評価が優れた企業で構成されています。

■ESG適格基準

項目	内容	新規採用条件	継続採用条件
MSCI ESG格付け	・各企業のESGに関するリスクと機会への対応力を調査・分析 ・各企業に係る主要な問題への対応力を同業他社と比較 ・AAA～CCCの7段階で各企業を評価(BBは最上位から5番目)	BB以上	BB以上
不祥事スコア	・各企業の事業、製品やサービスがESGにネガティブな影響を与え得る不祥事の深刻度やその解決のための対策を0～10で評価(0が最低評価)	3以上	1以上
ビジネス関与スクリーニング	・非人道的兵器と関連性を有するすべての企業、核兵器に関する製造やサービスに関連するすべての企業を除外 ・民間銃器、たばこ、アルコール、通常兵器、ギャンブル、原子力、化石燃料抽出、石炭火力の製造、販売などに関連する事業から一定以上の売上や収益を得ている企業を除外		

■MSCI ESG格付けの評価項目

●環境(Environment)

地球温暖化	自然資源	廃棄物管理	環境市場機会
二酸化炭素排出、環境配慮融資など	水資源枯渇、生物多様性と土地利用など	有害物質と廃棄物管理、包装材廃棄物など	クリーンテクノロジー、再生可能エネルギーなど

●社会(Social)

人的資源	製品サービスの安全	ステークホルダーマネジメント	社会市場機会
労働マネジメント、労働安全衛生など	製品安全・品質、製品化学物質安全など	透明性のある物資調達、コミュニティ関係	金融へのアクセス、ヘルスケアへのアクセスなど

●ガバナンス(Governance)

コーポレートガバナンス	企業行動
取締役会構成、報酬など	企業倫理、租税回避など

※産業により重要とされる項目が異なるため、全ての項目で評価するものではありません。

※ESG適格基準やMSCI ESG格付けの評価項目は、今後変更される可能性があります。

※MSCI Inc.の資料を基に中銀アセットマネジメントが作成

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

 中銀アセットマネジメント

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称：せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



投資リスク（くわしくは販売会社へお問い合わせください）

◆基準価額変動要因

当ファンドは、実質的に国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではありません。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者のみなさまに帰属します。

■株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の価格が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

■為替変動リスク

外貨建資産については、当該外貨の円に対する為替相場の影響を受け変動します。

当ファンドが実質的に保有する外貨建資産について、当該外貨の為替相場が円安方向に進んだ場合には当ファンドの基準価額が上昇する要因となり、円高方向に進んだ場合には下落する要因となります。

■信用リスク

有価証券等の価格は、その発行体の倒産、財務状況又は信用状況の悪化、債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。

当ファンドが実質的に保有する有価証券等の発行体にこうした状況が発生または予想される場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

■流動性リスク

大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金のお申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

◆その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

◆リスクの管理体制

- ・委託会社では、各種社内規定において、運用に関するリスク管理方針を定め、運用部から独立した部署が、運用の指図について運用の基本方針や法令諸規則等に照らして適切かどうかのモニタリング・検証を通じて、運用リスクの管理を行っております。
- ・委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。
- ・取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

 中銀アセットマネジメント

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称: せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



お申込みメモ (くわしくは販売会社へお問い合わせください)

購入単位	販売会社が定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	お申込みをされた販売会社が定める所定の日時までに購入代金を販売会社に支払うものとします。
換金単位	販売会社が定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いいたします。
申込締切時間	原則として、日本における販売会社の営業日の午後3時30分まで受付けます。 なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の休業日は、購入・換金のお申込みができません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限(2022年12月16日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解消し、当該信託を終了する場合があります。 ①一部解約により残存口数が5億口を下回った場合 ②受益者のために有利であると認めた場合 ③やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年12月15日。ただし、決算日が休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	年1回、毎決算日に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 (委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。) ※決算日から起算して原則として5営業日目までにお支払いを開始します。
公告	委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行います。
運用報告書	委託会社は、毎計算期間終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知っている受益者に、販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。 ※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。

お客様にご負担いただく費用について (くわしくは販売会社へお問い合わせください)

以下の手数料等の合計額等については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

●購入時

購入時手数料	購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
--------	--

●換金時

換金時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

●保有期間中(信託財産から間接的にご負担いただきます。)

運用管理費用 (信託報酬)	ファンド	日々の純資産総額に対して年率1.133%(税抜1.03%)を乗じた額
	投資対象とする投資信託証券	投資対象ファンドの純資産総額に対して年率0.121%程度(税抜0.11%程度)
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して年率1.254%程度(税抜1.14%程度)
その他の費用・手数料	その他の費用、手数料として、投資者のみなさまの保有期間中、監査法人に支払われるファンドの監査費用、有価証券等の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産からご負担いただきます。 ※監査費用は、日々のファンドの純資産総額に対して、年率0.0055%(税抜0.005%)を乗じた額をその費用の合計額とみなして、実際の費用に関わらずファンドからご負担いただきます。(監査費用とは、監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用です。) ※投資対象とする投資信託証券においては、上記以外にもその他の費用・手数料・監査費用・信託財産留保額等が別途かかる場合があります。 ※上記の費用・手数料等については、売買条件等により異なるため、当ファンドにかかる監査費用の料率を除き、事前に金額または上限額等を記載することができません。	

※最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。  中銀アセットマネジメント

- MONTHLY REPORT -

せとうち応援株式ファンド
(愛称: せとうちサポーター)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／株式



販売会社

商号	登録番号等	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号	○			
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社トマト銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第11号	○			

(50音順)

委託会社、その他関係法人

委託会社	中銀アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第10号) 一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会 会員 信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社) 追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

- ◆投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。／投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- ◆当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために中銀アセットマネジメントが作成した資料です。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ◆当資料にインデックス・指数等が記載されている場合、それらの知的財産その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ◆当資料中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。
- ◆市況動向および資金動向等により、ファンドの運用方針どおりの運用が行われない場合があります。
- ◆当資料は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

当資料で使用した指数について

- ◆MSCIコクサイESGリーダーズ指数(配当込み、円換算ベース)とは、MSCI Inc.が開発したMSCIコクサイESGリーダーズ指数(米ドルベース)をもとに三菱UFJアセットマネジメント株式会社が計算したものです。MSCIコクサイESGリーダーズ指数(米ドルベース)は、MSCI ESGリサーチが提供する企業格付けと調査を利用し、日本を除く先進国の株式から、業種内において相対的にESG(環境、社会、ガバナンス)評価が優れた企業で構成されています。MSCIコクサイESGリーダーズ指数(米ドルベース)に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
- ◆配当込みTOPIX(以下「TOPIX」といいます。)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社J P X 総研または株式会社J P X 総研の関連会社(以下「J P X」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJ P X が有します。J P Xは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

中銀アセットマネジメント